

<b>政治・経済 (Politics・Economics)</b>		<b>3年・通年・2単位・必修</b> 機械工学科、電気工学科、電子制御工学科、 物質化学工学科 <b>担当 木村 倫幸</b>
〔準学士課程 (本科1-5年) 学習教育目標 (1)〕	〔システム創生工学教育プログラム 学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
<p>〔講義の目的〕 工業の専門科目にも政治と経済は密接な関係を有している。というのも現代社会では、グローバル化の中で、国内政治・経済と国際政治・経済が互いに浸透しあいつつ形成されており、科学技術もこの構造に組み込まれ大きな影響を受けているからである。それ故将来に技術者となっていく学生諸君も、この状況についての知識が不可欠である。 本講義では、現代社会を形成している政治的経済的構造を性格に理解するとともに、それらをもとにして自分のよって立つ視点を確立するための総合的な思考の能力を養う。</p>		
<p>〔講義の概要〕 現代社会の政治的経済的諸問題を取り上げ、その構造と方向性等を理解する。そして宗教・人種・民族・歴史等を踏まえた多角的な視点から、現代社会を見ていく眼の複雑さを理解する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 個々の情報の収集能力、理解能力の拡大のみならず、これらの知識を総合し、具体的なものへとしていく習慣づけが重要である。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：民主政治の基本原則、統治制度の仕組みを理解する。 前期末試験：平和主義、基本的人権の意義と仕組み、国際社会における法と国際機構の意味を理解する。 後期中間試験：現代経済の仕組み——経済主体間の取引関係、市場経済の構造とそのメカニズム、金融市場の構造と金融政策を理解する。 学年末試験：経済のグローバル化と地域経済統合、国際金融システムを理解する。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績 (80%) にレポート等 (20%) を含めて総合評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「政治・経済」 (三省堂、中川淳司ほか7名) 〔補助教材・参考書〕 参考図書については、講義中に、適宜指示する。 また資料としてプリントを配布する。</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕 「地理」、「歴史」との関連が深い。また高学年で学習する「人文科学総合」とも密接な関連がある。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	はじめに	政治と経済を学習する必要について考える。	
第2週	人間と政治	人間が社会的存在として「政治」という一連の作業行い、その中で、民主主義が定着していった過程を探る。	
第3週	世界の政治体制	社会主義体制やファシズム、民主政治などの仕組みを比較する。	
第4週	立憲主義と日本国憲法	日本国憲法の基本原理を検討する。	
第5週	日本の民主政治と立憲主義	日本の政治機構で議会制民主主義、権力分立の原理がどのように機能しているかを理解する。	
第6週	民主政治と平和主義	日本国憲法の「平和主義」についてその現代的な意義を理解する。	
第7週	日本国憲法と基本的人権の尊重	日本国憲法における基本的権について考え、人権に関わる現実社会の諸問題について理解する。	
第8週	国家からの自由、国家による自由	国家と国民の自由・基本的人権との関係について理解する。	
第9週	現代の政党政治	諸外国における政党政治——二大政党制と多党制——や選挙制度について比較、検討する。	
第10週	行政機能の拡大と官僚制	行政権の拡大と官僚制の弊害について理解する	
第11週	国際政治の特質	主権国家間の関係を勢力均衡論を中心に理解し、国際機構や非政府組織などの意義と活動について考える。	
第12週	冷戦終結後の世界	冷戦の歴史的経緯を理解し、冷戦終結後の世界各地での民族問題の激化について理解する。	
第13週	国際社会における法	国際法の形成過程をたどる中で、その現代的な意義を確認する。	
第14週	人権、平和への国際的取り組み	国際連合や非政府組織などによる人権の国際的保障や平和への取り組みについて考える	
第15週	現代政治の課題	上記以外の現代政治における諸課題について理解する。	
前期末試験			
第16週	国民経済と経済主体	家計・企業・政府等国民経済主体間の取引関係を理解する。	
第17週	市場の構造と限界	市場のメカニズムと問題点について理解する。	
第18週	企業と資本主義	社会で企業の果たす役割と責務について考える。	
第19週	政府財政と税の構造	税の構造と機能を理解し、日本の財政政策を理解する。	
第20週	金融市場と金融政策	金融市場の構造と中央銀行による金融政策について考える。	
第21週	市場経済の発展	資本主義経済の発展過程を理解する。	
第22週	労働関係制度と労働組合	労働関係諸法と労働市場の特徴を理解する。	
第23週	景気変動と経済成長	景気変動と経済成長との関連性を理解する。	
第24週	戦後日本の経済	戦後高度経済成長期から現在までの日本経済の動きを理解する。	
第25週	国際経済の仕組み	戦後の国際経済の動きを理解する。	
第26週	国際金融システムの展開	固定為替相場制と変動為替相場制を理解する。	
第27週	グローバル化と地域経済統合	経済のグローバル化にともなう国際的な経済関係の変化と地域経済統合の意味を理解する。	
第28週	南北問題と経済秩序	南北問題とこの解決を図る新国際経済秩序の意義を理解する。	
第29週	現代日本の政治・経済	現代日本の政治と経済をめぐる諸課題（地方自治、社会保障、公害防止と環境保全など）について理解を深める。	
第30週	国際社会の政治・経済	現代の国際社会の政治と経済をめぐる諸課題（地球環境問題、核兵器と軍縮、人種・民族問題など）について理解を深める。	
学年末試験			

\* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<b>政治・経済 (Politics&amp;Economics)</b>		<b>3年・通年・2単位・必修 情報工学科 担当 三浦隆宏</b>
〔準学士課程 (本科 1-5年) 学習教育目標〕 (1)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
<p>〔講義の目的〕</p> <p>政治・経済は、私たちが日々の社会生活を営んでいくうえで欠かすこのできない (=それなしでは私たちの毎日の暮らしが成り立たない) 基本的な「仕組み」であるといつてよい。</p> <p>本講義の目的は、この「仕組み」を、現在じっさいに生じている《政治・経済上の出来事》とそれに対応する《教科書の記述》とのあいだを自在に往還することで内在的に理解し、そのことで政治・経済を単なる「教科」としてではなく、生きた「現実」として実感できるようになることである。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>はじめに現代世界/日本の政治・経済の現状をおおまかに概観したうえで、前半では政治・経済の基本的なトピックについて、その「仕組み」と歴史的な「経緯」について説明し、後半では現代社会において浮上してきているいくつかの「課題」について、新聞記事などを題材にしつつ考える。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>教科書も適宜参照しますが、授業の大部分は配布プリントに基づいて進めます。前期/後期の中間・期末試験はこのプリントに沿ったかたちで実施しますので、授業中に配布されたプリントは各自で保管するようにしてください。また、講義の予習・復習はとりたてて要求しませんが、日頃から新聞やニュース番組などを通じて、政治・経済上の出来事に興味をもつようにしてください。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前期中間試験：現代世界の政治・経済の現状を「ポスト冷戦の世界像」「拡大する EU」「東アジア共同体という構想」として把握するとともに、戦後 60 年の日本の政治・経済の変遷を理解すること。</li> <li>●前期期末試験：「民主主義」「多数決」「立憲主義」といった政治の基本的な仕組みを理解すること。</li> <li>●後期中間試験：「資本主義/社会主義」「市場原理」「景気変動と経済成長」といった経済の基本的な仕組みを理解するとともに、現代政治の「課題」について批判的に考察できること。</li> <li>●学年末試験：「環境問題」「社会保障」制度といった、私たちの社会が現在抱え込んでいる政治・経済上の困難を直視し、その困難の原因がどこにあるのかを自分の頭で考察できること。</li> </ul>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験 (70%) を基本とし、これに授業内での小テスト (15%)・長期休暇中の課題レポート (15%) などを加えて、総合的に評価します。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>『政治・経済』三省堂</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>配布プリント・参考書は授業中に適宜紹介します。</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>社会科学科目全般に関連します。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	イントロダクション	年間の講義内容／計画についてのおおまかな説明を行なう	
第2週	現代世界の政治・経済	「冷戦構造」の特徴について考える	
第3週	同上	「冷戦終結後の世界」の歩みを辿る	
第4週	同上	「拡大するEU」の影響力について考える	
第5週	同上	「東アジア共同体」という構想の成り立ちについて考える	
第6週	同上	「東アジア共同体」という構想の実現可能性を探る	
第7週	現代日本の政治・経済	戦後60年の日本政治を「政党政治」の観点から振り返る	
第8週	同上	戦後60年の日本経済を「成長」という観点から振り返る	
第9週	同上	戦後60年の日本人の意識変化を振り返る	
第10週	政治の仕組み	「民主主義」という考え方の「仕組み」について考える	
第11週	同上	「民主主義」という考え方の歴史的な「経緯」を辿る	
第12週	同上	「多数決」はなぜ妥当なのかについて考える	
第13週	同上	「立憲主義」という考え方の「仕組み」について考える	
第14週	同上	「立憲主義」という考え方の歴史的な「経緯」を辿る	
第15週	同上	「立憲民主主義」とはいかなるものかについて考える	
前期期末試験			
第16週	経済の仕組み	「資本主義／社会主義」という考え方の「違い」を考える	
第17週	同上	「資本主義／社会主義」思想のこれまでの「経緯」を辿る	
第18週	同上	「景気変動や経済成長」が起こる理由について考える	
第19週	同上	「景気変動や経済成長」が引き起こす問題点について考える	
第20週	同上	「市場原理」の「仕組み」について考える	
第21週	同上	「市場原理」の歴史的な「経緯」を辿る	
第22週	同上	「市場原理」の拡大とその外部について考える	
第23週	現代政治の課題	「ポピュリズム」という現象について考える	
第24週	同上	「ポピュリズム」を克服する方途を探る	
第25週	同上	「地球環境問題」の原因について考える	
第26週	同上	「地球環境問題」への現代社会の取り組み方について考える	
第27週	現代経済の課題	「社会保障」制度の現状について考える	
第28週	同上	「社会保障」制度の未来像について考える	
第29週	同上	新しい「豊かさ」の構想を探る	
第30週	総まとめ	一年間の講義内容を振り返る	
学年末試験			

\* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)